

平成 27 年度東成区運営方針（素案）の策定に向けて

課題「教育環境の充実」

平成 27 年度東成区運営方針策定の方向性

区役所が考える方向性

【めざすべき将来像】（概ね 10～20 年間を念頭に設定）

学校、保護者、地域等が協力し合い、子どもたちにとって良好な教育環境が整い、子どもたちは、自己肯定感を持ち、将来を生き抜く力を身につけて、それぞれの可能性を伸ばせるようになっている。

【めざす状態】（概ね 3～5 年間を念頭に設定）

- ・子どもたちの成長のために、学校、保護者、地域等が連携して、学校を支援する環境が整っている。
- ・学校において、より良い教育ができるよう、学校と区役所の協力関係が構築され、特色ある学校づくりに寄与している。

- 学校、保護者、地域等との連携・協力を進めるとともに、学校協議会や学校長との意見交換等を通じて、学校支援の活動や仕組みの充実、発展を図る。
- 学校における土曜授業等への協力を通じて、特色ある学校づくりの支援を行う。

平成 27 年度東成区運営方針策定の方向性

区民のみなさまが考える方向性

（メモ欄としてご自由にお使い下さい。）

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

＜自己肯定感＞平成 25 年度

- ・自分に良いところがあると思いますか（当てはまる、どちらかと言えば、当てはまる）

小学生…大阪市 70.3%、全国 75.7%

中学生…大阪市 60.6%、全国 66.4%

＜生活習慣＞平成 25 年度

- ・朝食を毎日食べている割合

小学生…大阪市 93.4% 全国 96.3%、中学生…大阪市 88.4% 全国 93.4%

- ・毎日同じくらいの時刻に寝ている割合

小学生…大阪市 72.7% 全国 78.9%、中学生…大阪市 71.2% 全国 74.3%

＜子どもを取り巻く環境＞平成 25 年度

- ・地域の環境が、子どもにとって自然、社会、文化などの体験活動に参加しやすい環境であると思う就学児童の保護者の割合：19.2%

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・子どもは家庭生活をはじめ、学校、地域など社会における様々な経験や人との交流を通じて成長していくことから、朝食の喫食の有無や睡眠時間などの生活習慣の課題や様々な体験機会の減少などがその要因の 1 つとして考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・健全な生活習慣の形成や多様な体験ができる環境づくりのためには、家庭はもとより学校、地域が連携して、子どもや学校を支える環境作りが必要である。

平成 26 年度東成区運営方針

主な取組みの課題と改善策（平成 26 年度中間振り返り）

- 主な取組み名【はぐくみネットを核とした学校支援のネットワークの活性化支援】
 - ・教育委員会事務局とも連携調整し、大学教授を交えた意見交換会・交流会の 10 月実施に取り組んだ。
- 主な取組み名【特色ある学校づくりの支援】
 - ・安全・安心まちづくり大会（4 月）、防犯教室（6 月）、土曜授業（8 月）